

平成 30 年度における公共施設の稼働率に関する報告

R1.12.24 行政経営課

平成 29 年 10 月の公共施設の使用料見直しから丸 2 年が経過し、平成 30 年度決算は新料金体系が通年適用された初めての決算となりました。

この間における利用状況は、団体利用と個人利用合わせて前年度比 3.4%増となる 372,841 件・人で、その内訳は、団体利用が前年度比 1.3%減の 89,275 件、個人利用は前年度比 5.0%増の 283,566 人となっています。

団体利用の減については、登録団体が減少傾向にあることのほか、使用料見直しによる値上げの影響により、使用回数を減らしている団体があることが要因のひとつと考えられます。

また、個人利用の増については、使用料見直しに合わせて 70 歳以上及び子どもの共用利用を無料化したことに伴い増加していると考えられます。

使用料収入については、前年度比 14.0%、約 2,050 万円増となる 1 億 6,722 万円となっていますが、見直し時に想定していた 7,000 万円増よりも低い結果となりました。

この要因を分析したところ、使用料見直し前に比べて利用時間が減少している傾向があることが分かり、特に使用料が 2 倍となった部屋の利用時間が 30%以上減少していました。

全ての公共施設は「市民福祉の向上」等の目的を持って設置されたものであり、十分に利用されていない状況ではその目的を達成することができません。

そこで、公共施設の利用を促進する方策を検討する資料として、平成 30 年度における稼働率を算出したものです。

1 稼働率の算出方法

(1) データの抽出元

e-kanagawa 施設予約システムから、施設別の「コマ別予約情報一覧」を抽出して元データとしました。

(2) 稼働率の算出

同一時間帯における、各施設設置条例施行規則の規定による開館日数を分母とし、「コマ別予約情報一覧」から抽出された予約がある日数を分子として稼働率を算出しました。

施設予約システムを導入している施設については、使用料徴収の有無に

関わらず全て稼働率を算出しています。

また、個人利用は、施設予約システムにデータがないため、加算せずに稼働率を算出しています。

(3) 利用形態の区分によるカウント

総合体育館メインアリーナのように、利用形態に「全面、1/2面、1/3面」などの区分がある場合には、どこかの区分にひとつでも予約があれば「稼働日数」としてカウントしています。

(4) 複数部屋の同時予約の際のカウント

公民館のように、調理室と和室をセットで予約できる施設の場合、単独の部屋別稼働日数にセットの稼働日数を加算して「稼働日数」としていません。

2 稼働率の目安

公共施設の使用料は、平成 26 年 11 月に策定した「秦野市公共施設の利用者負担の適正化に関する方針」に基づき算出された金額を目安としています。特殊な機器や設備を使用する場合を除き、その計算式は次のとおりです。

$\text{フルコスト (円)} \div \text{共用部分を除く延床面積 (m}^2\text{)} = \text{年間コスト (円/m}^2\text{)} \text{【A】}$ $\text{【A】} \times \text{部屋の面積 (m}^2\text{)} = \text{部屋の年間コスト (円)} \text{【B】}$ $\text{【B】} \div \text{年間利用可能時間の 50\% (時間)} = \text{1 時間あたりのコスト (円/時間)} \text{【C】}$ $\text{【C】} \times 1/3 = \text{1 時間当たりの使用料の目安 (円/時間)}$
--

本市には、公共施設の稼働率を〇〇%にする、というような明確な目標値はありませんが、この計算式に「年間利用可能時間の 50% (時間)」が含まれているのは、一般的に民間の貸し会議室等の使用料設定の目安とも言われている、「50%の稼働率でコストを賄う」という考え方に倣っているものです。したがって、使用料を徴収している施設については、「稼働率が 50%になれば利用者負担はフルコストの 1/3 となる」ため、この割合がひとつの目安になると考えられます。

しかし、これはあくまでも目安であり、「稼働率が低い施設だから、必要性が低い」と判断できるものではありません。1 日当たりの平均稼働率が低い施設であっても、特定の部屋や時間帯によっては抽選を実施している施設もあるため、稼働率が低い理由を把握することが重要です。

3 施設所管課での分析等の必要性

行政経営課が持つ市内の公共施設に関するデータには、各課に照会して行政経営課で取りまとめたものと、施設予約システムから取得しているものとがありますが、情報量が膨大であり、その全てを詳細に分析することは困難です。この報告では、平均稼働率と部屋別の稼働率を見比べることにより把握できること、の一例を示しています。

施設所管課においても、詳細な分析を実施し、稼働率の状況とその理由を把握することで、より効果的な運営に結びつく可能性がありますので、そのことを念頭に施設別の稼働率の報告をご覧ください。

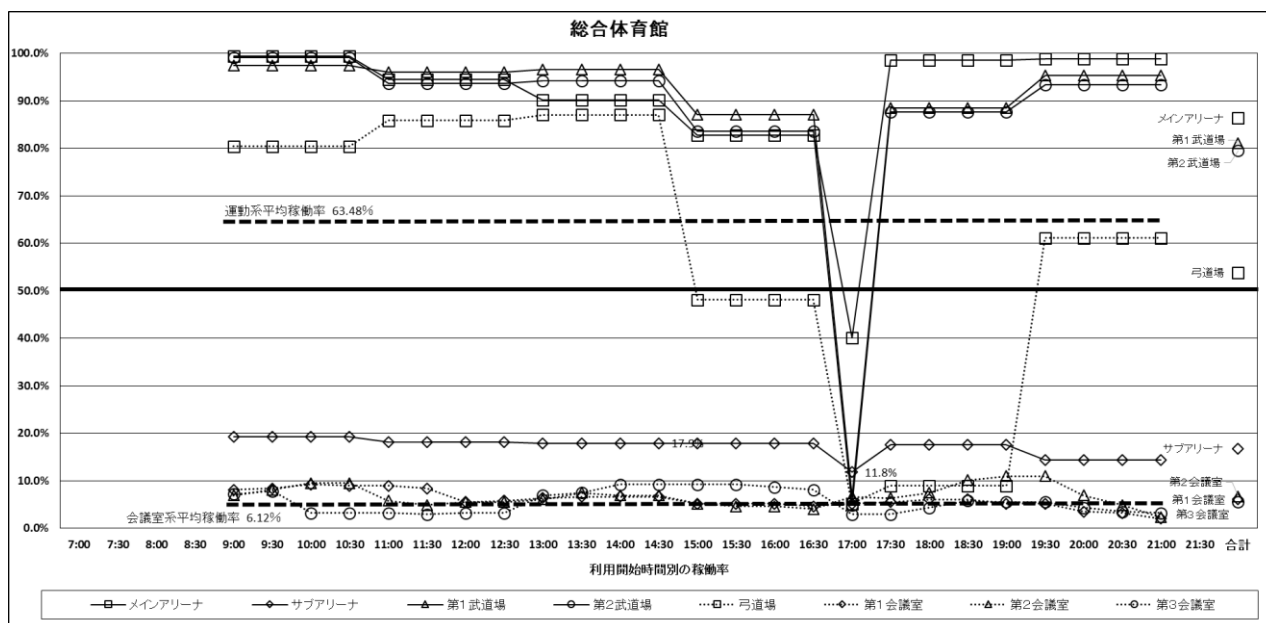
4 施設別の稼働率

(1) 総合体育館

メインアリーナ、武道場等の体育施設と会議室のほか、個人利用のトレーニングルームなどがあります。

運動系の部屋の平均稼働率は 63.48%と高く、中でもメインアリーナ、第1及び第2武道場は 80%前後と特に高くなっています。サブアリーナは 16.71%ですが、共用利用が 17,000 人を超えているため、実際の稼働率はもっと高いと考えられます。

運動系の部屋の稼働率を時間帯別に見ると、15時までは80%以上ですが、17時までに少し落ち込み、17時からの30分はメインアリーナを除きほぼ利用がない状態となります。その後、17時30分からの利用で再び上昇し、社会人の利用が多くなるとされる19時30分以降にさらに



上昇する傾向があります。弓道場については、17時30分からの上昇はありませんが、19時30分から60%まで急上昇していますので、夜間の利用は社会人がほとんどであり、しかも一定の需要があることが伺えます。

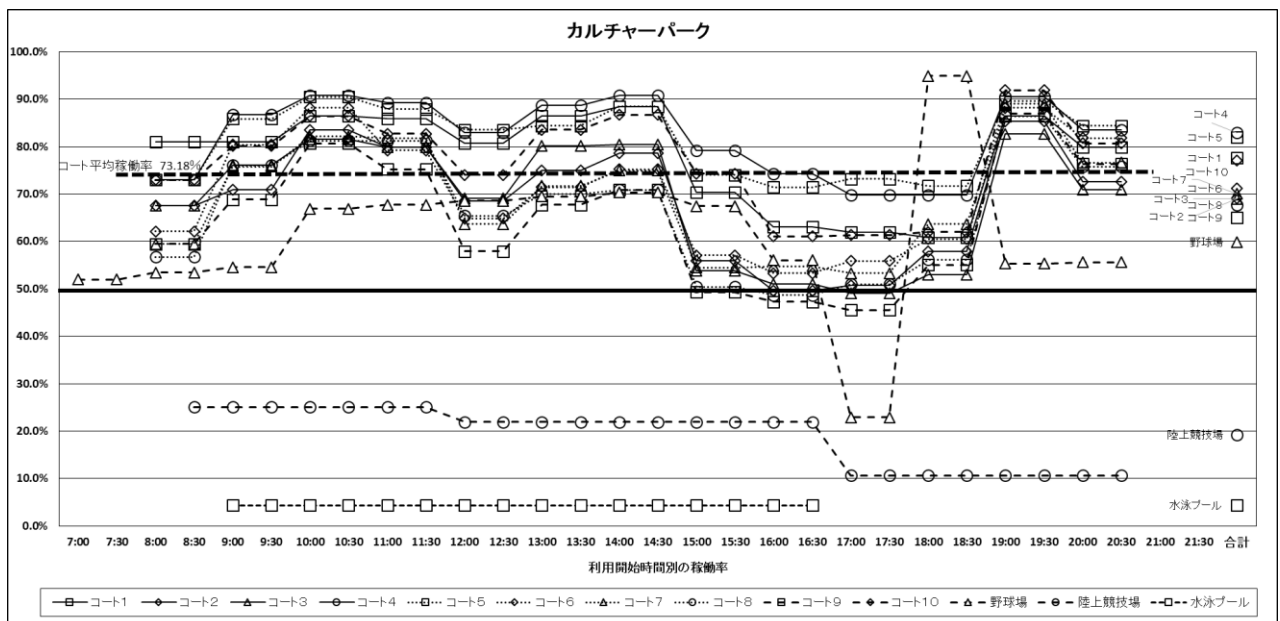
平均して稼働率が高い運動系に対して、会議室は3室全てが平均稼働率10%未満と、著しく低い結果となりました。隣接している文化会館にも複数の会議室があること、スポーツ施設である総合体育館で会議を行うイメージがないこと、などの要因が考えられます。

会議室の重複利用の状況を調べたところ、年間の利用可能コマ数9,125に対して、2部屋重複利用が903で9.90%、3部屋重複利用が1,039で11.39%となりました。3部屋重複の場合は、本市の事業や大会等のイベントで主催者が全て押さえている場合も相当数含まれ、稼働率から推測しても、一般利用の重複がこれだけ発生しているとは考えられません。効果的な利用方法を検討するとともに、イベント等の一体利用が多く一般団体の会議利用が少ない状況であれば、将来の更新時期を見据えて、会議室の必要性や配置を検討しておく必要があります。

個人利用となるトレーニングルームは、およそ62,000人の利用があります。平成29年10月以降は70歳以上の高齢者を無料としたことで、以前よりも混雑が激しくなっている状況であり、無料利用者と有料利用者の双方が気持ちよく利用できる環境を整える必要があります。

(2) カルチャーパーク

テニスコート10面、野球場、陸上競技場、水泳プールの屋外施設があります。



テニスコートは、他の有料施設であるおおね公園及び立野緑地庭球場も含めて稼働率が非常に高く、カルチャーパークでは 10 コート平均で 73.18%にもなります。市内の民間テニスコートよりも安い料金設定であることが要因のひとつと考えられます。15 時までの稼働率が高いことから、社会人以外にも広く利用されており、市民の健康増進の一端を担っているとも考えられます。

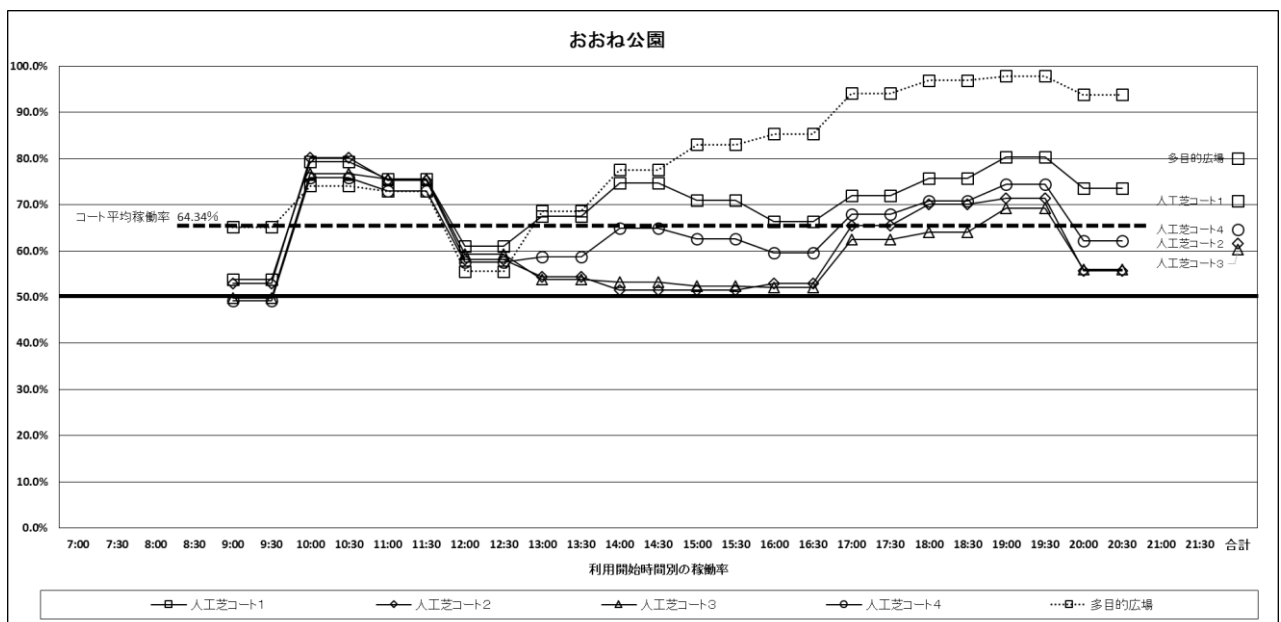
野球場の平均稼働率は 59.90%と高く、夏季のみの早朝 7 時からの利用においても 52.00%となっています。市内では本格的に野球ができる広場が限られていることから稼働率が高くなっていると考えられます。

陸上競技場及び水泳プールの平均稼働率は、それぞれ 19.21%、4.35%とテニスコート及び野球場よりも低くなっていますが、個人利用は陸上競技場がおよそ 17,000 人、水泳プールがおよそ 49,000 人となっていますので、実際の稼働率はまだ高いと考えられます。

(3) おおね公園

有料施設として温水プール、トレーニングルーム、テニスコート 4 面、多目的広場が、無料施設としてスケーティング場、ゲートボール場、ジョギングコースなどがありますが、施設予約システムで予約可能な施設はテニスコートと多目的広場（スポーツ広場）の 2 施設のみです。

テニスコートの平均稼働率は 64.34%で、カルチャーパークより低くなっていますが、十分な稼働率といえます。コート 2 及び 3 の午後の稼働率が低めに推移しているため、まだ利用を促進する余地があるとも考えられます。



多目的広場（スポーツ広場）の平均稼働率は 80.08%と非常に高く、12時に一度稼働率が低下しますが、夜間に向けて右肩上がりの稼働率となっています。人工芝に改修し、使い勝手が向上したことで稼働率が上がっていると考えられます。稼働率が高い半面、個人利用はおよそ 2,400 人と少なくなっています。

また、個人利用となる温水プールはおよそ 76,000 人、トレーニングルームはおよそ 25,000 人と、多くの市民に利用されています。しかし、平成 29 年 10 月以降は 70 歳以上の高齢者及び中学生以下の子どもを無料としたことで、以前よりも混雑が激しくなっている状況であり、無料利用者と有料利用者の双方が気持ちよく利用できる環境を整える必要があります。

(4) サンライフ鶴巻

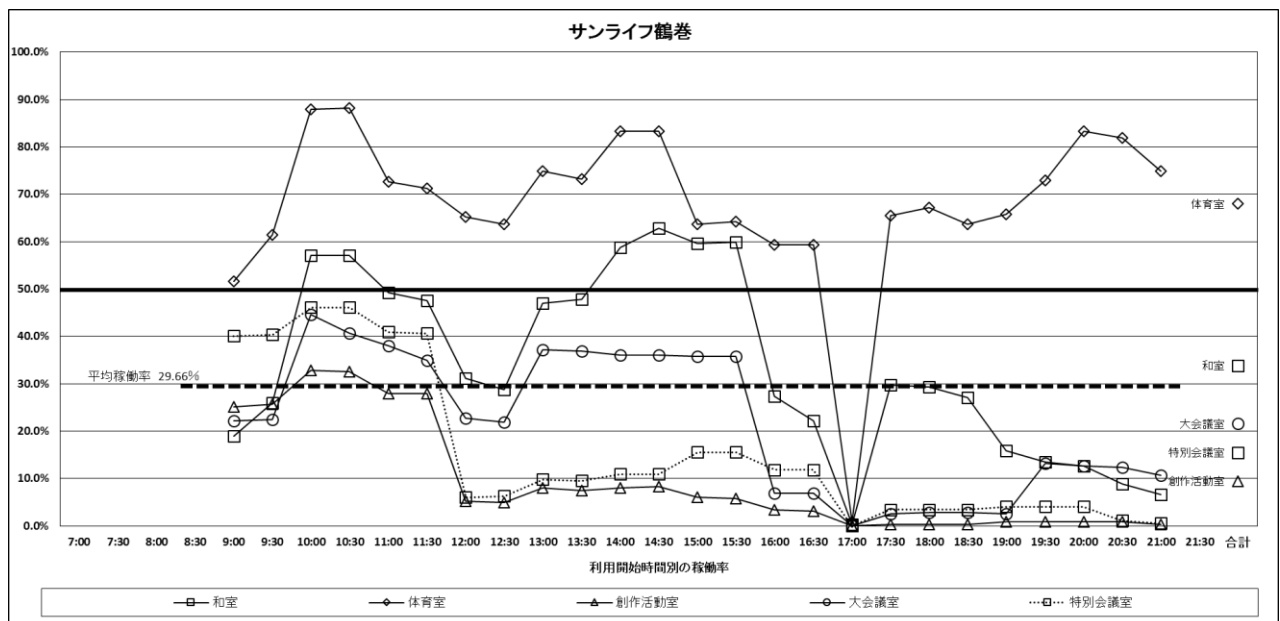
大根地区唯一の屋内運動施設である体育室を備えるほか、公民館と機能が重複する和室、創作活動室、会議室があります。また、個人利用となるトレーニングルームがあります。

体育室の平均稼働率は 67.95%と、施設の中で最も高くなっていますが、11時から13時まで、15時から19時までは低下しています。

和室及び大会議室は午前及び午後の稼働率が高めとなっていますが、夜間は 30%以下まで低下します。

特別会議室は午前中のみ 40%を超えています。午後及び夜間は 20%未滿とほとんど利用がない状況です。

調理室機能や七宝焼き炉を備える創作活動室の平均稼働率は 10%未滿

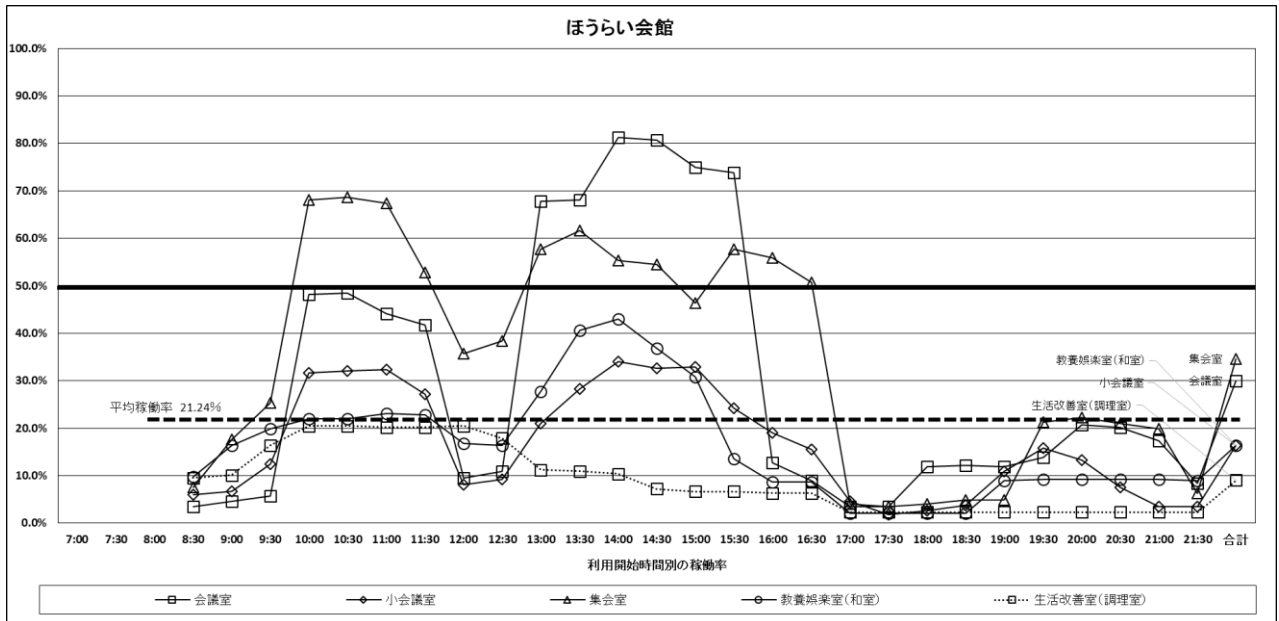


と最も低くなっています。

施設全体の平均稼働率は 29.66%と低く、直近の鶴巻公民館と重複する機能の部屋が多く、利用が分散する傾向があるためと考えられます。

個人利用のトレーニングルームは、効率的な運営を図るため平成 25 年度に一部機器をおおね公園に移し、常駐していたトレーナーも巡回方式に変更しています。平成 30 年度の利用はおよそ 10,000 人でした。

(5) ほうらい会館



隣保館として設置されていますが、施設としての機能は公民館と共通しています。集会室、会議室、休養娯楽室（和室）、生活改善室（調理室）のほか、無料施設の図書室があります。

平均稼働率では、集会室の 34.56%が最も高く、次いで会議室の 29.92%となっていますが、午後の時間帯の会議室の稼働率が時間帯別では最も高くなります。集会室の午後及び会議室の午前はまだ利用を促進する余地がありますが、夕方までの時間帯においては一定の需要があることが伺えます。両部屋ともに夜間の稼働率は 20%以下と低くなっています。

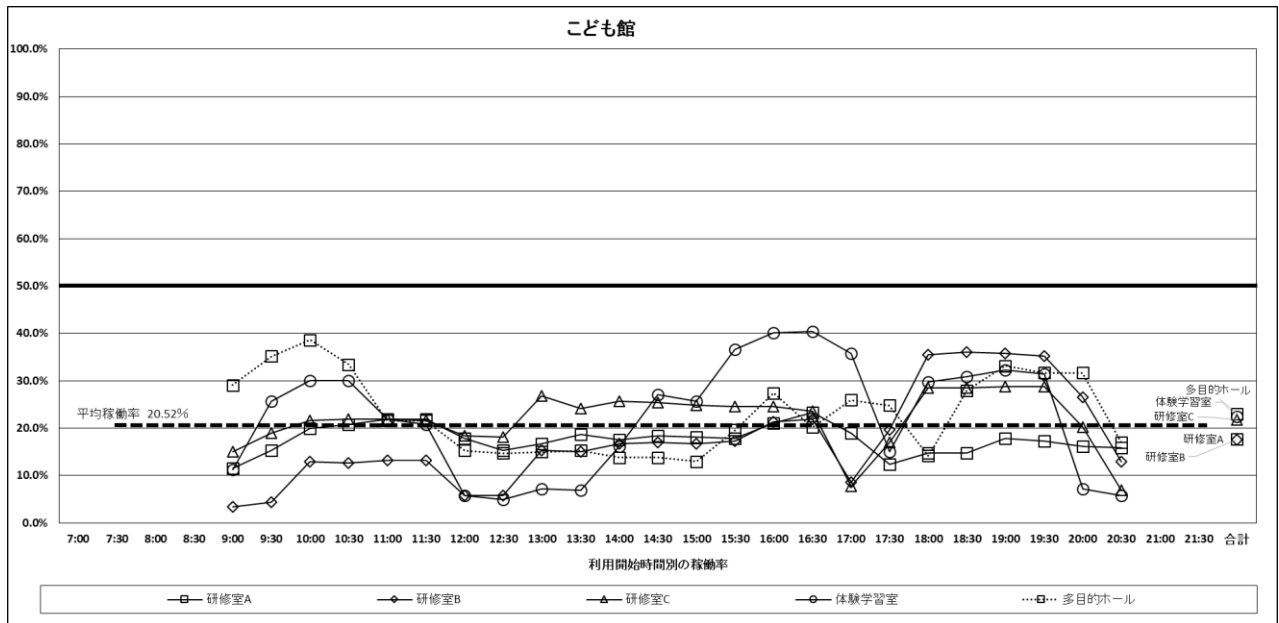
また、その他の部屋の平均稼働率は 20%以下と低く、最寄り駅から距離があること、駐車場に限りがあることなどがその要因と考えられます。

(6) こども館

「子どもたちに交流と社会体験活動の場を提供し、心身ともに健全な育成を図る」ことを目的として設置されている施設で、無料施設の多目的ホール、体験学習室、研修室のほか、個人利用となる学習室、ぽけっと 21 などがあります。

施設の利用を 18 歳未満の子ども及び育成団体等に限っているため、施設全体の平均稼働率は 20.52%と非常に低くなっています。

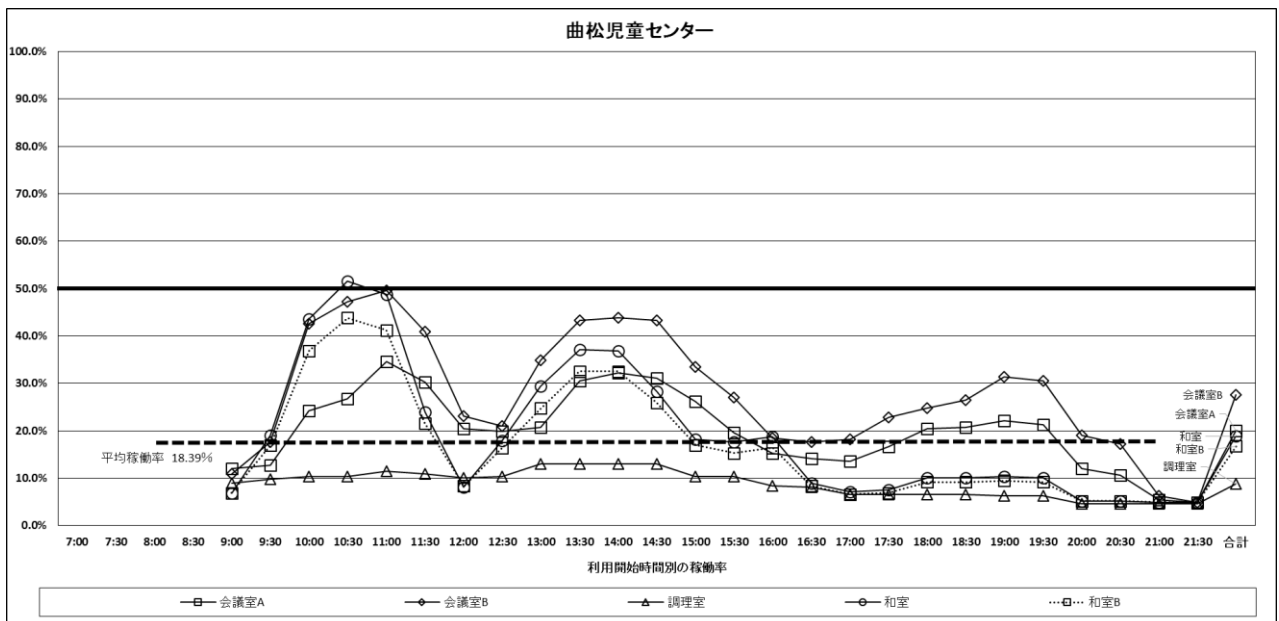
直近の本町公民館の平均稼働率は、こども館の倍以上の 42.15%であり、施設が備えている部屋の機能を考えれば、比較的混雑している本町公民館の補完的な機能を果たすことが十分可能と考えられるため、開放施設への移行を検討する必要があります。



(7) 曲松児童センター

有料施設の会議室、調理室、和室のほか、児童館機能としての遊戯室、創作活動室、図書室を備えています。

会議室 B の平均稼働率が 27.55%で最も高くなっていますが、その他の部屋は 20%以下と低い稼働率で、施設全体の平均稼働率も 18.39%と



非常に低くなっています。

渋沢駅から徒歩1分と立地的には好条件ですが、稼働率が低くなっている要因として駐車場がないことが挙げられます。車を使用する利用者は西、渋沢、堀川などの公民館を使用していると推測されます。

また、施設の有効活用と市民サービスの向上、使用料収入の確保のため、平成29年10月の使用料見直しに合わせて、会議室B、遊戯室、創作活動室の3部屋を「定期的企業使用」が可能な部屋に位置付けていますが、制度が活用されていない状況です。

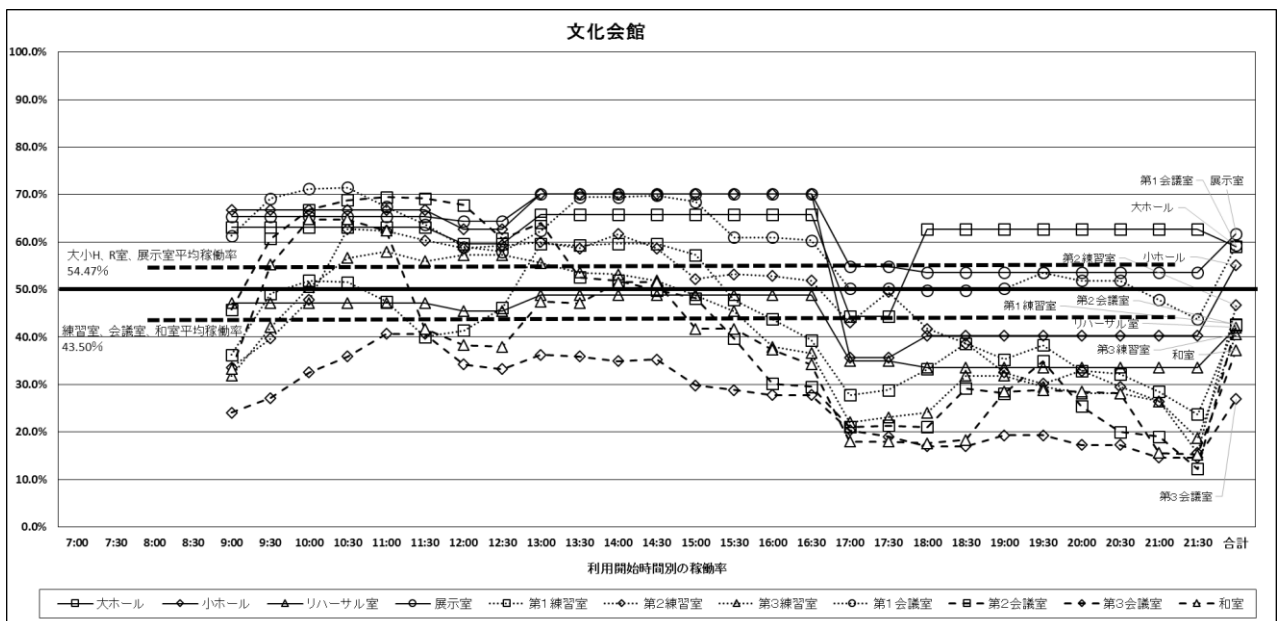
(8) 文化会館

大小ホール（各楽屋、シャワー室）、リハーサル室、展示室、練習室、会議室、和室を備えています。

文化会館独自の機能となる大小ホール、リハーサル室、展示室の平均稼働率は、目安となる50%を上回る54.47%と高くなっています。また、部屋別では展示室の61.69%が最も高く、大ホールの59.12%、小ホールの55.12%と続きます。

大小ホールと同時に利用される楽屋（大ホール5、小ホール3）も各ホールの平均稼働率の20%減程度で推移していますが、それぞれに備えているシャワー室は稼働率が4%程度と著しく低く、必要性に疑問があります。

公民館等とも共通する機能である練習室、会議室、和室の平均稼働率は43.50%で、その他の施設と比較しても高めとなっています。しかし、円卓を備える第3会議室と和室の平均稼働率が、それぞれ26.95%、



37.21%と低いため、比較的稼働率が高い練習室やその他の機能への転換、「定期的企業使用」の実施などを検討する必要があるかもしれません。

他の施設にも共通する機能である練習室、会議室、和室の稼働率が高い要因として、練習室1は公民館音楽室等よりも広く使い勝手が良いこと、練習室2及び3は防音室であり他の施設より使いやすいこと、駐車場が広く安心して車で来館できること、などが考えられます。

(9) 保健福祉センター

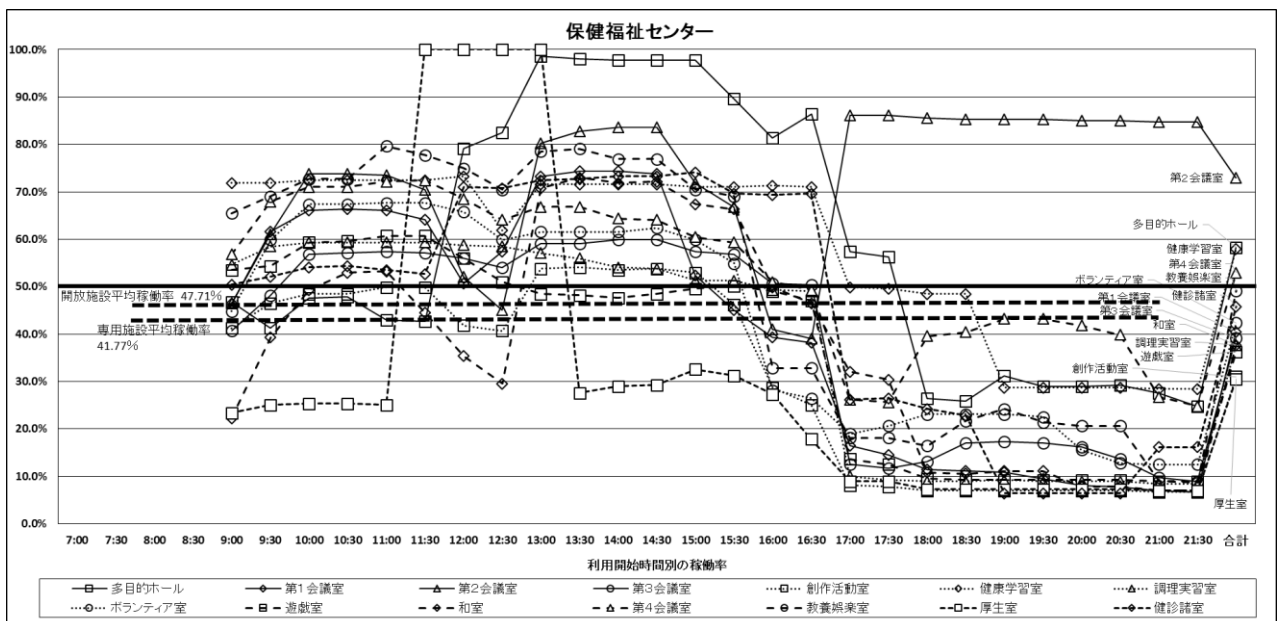
平成29年10月の使用料見直しに合わせて、一部の部屋について福祉専用施設から開放施設に変更しています。

開放施設には、多目的ホール、会議室、和室、教養娯楽室、創作活動室が、福祉専用施設には、健康学習室、調理実習室、厚生室、ボランティア室、相談室、遊戯室があるほか、こども家庭支援課及び社会福祉関係団体の事務室があります。

開放施設の平均稼働率は47.71%と高めですが、「定期的企業使用」を実施している第2会議室以外では19時以降の稼働率の低下が目立ちます。

多目的ホールは、文化会館以外の施設の中では規模の大きいホール形式の施設で、平均稼働率は58.26%と高くなっています。可動式の椅子によって体育室的な利用も可能で、この利用が341件となっているのに対して、ステージ・客席を使用するホール利用は61件と少なく、施設の機能が最大限に活かされているとは言い切れない状況です。

専用利用施設の平均稼働率は41.77%と高めですが、開放施設と同じく



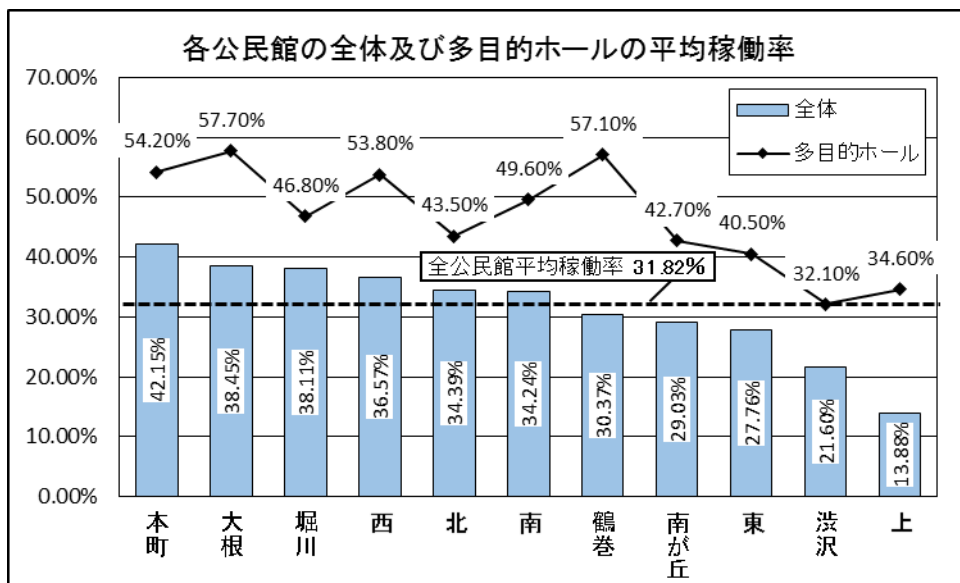
夜間の稼働率が低くなっています。

施設全体で夜間の利用が低調なため、「定期的企業使用」の拡大や開放施設の利用促進を図る必要があります。

(10) 公民館

市内には公民館が 11 館あり、年間の利用は団体利用及び個人利用を合わせた全館の合計で 43,000 件・人、1 館当たりおよそ 3,900 件・人となっています。

公民館 11 館の全部屋の平均稼働率は、次のグラフにあるとおり 31.82%となっています。館別では、本町公民館が 42.15%と最も高く、大根公民館の 38.45%、堀川公民館の 38.11%と続きます。

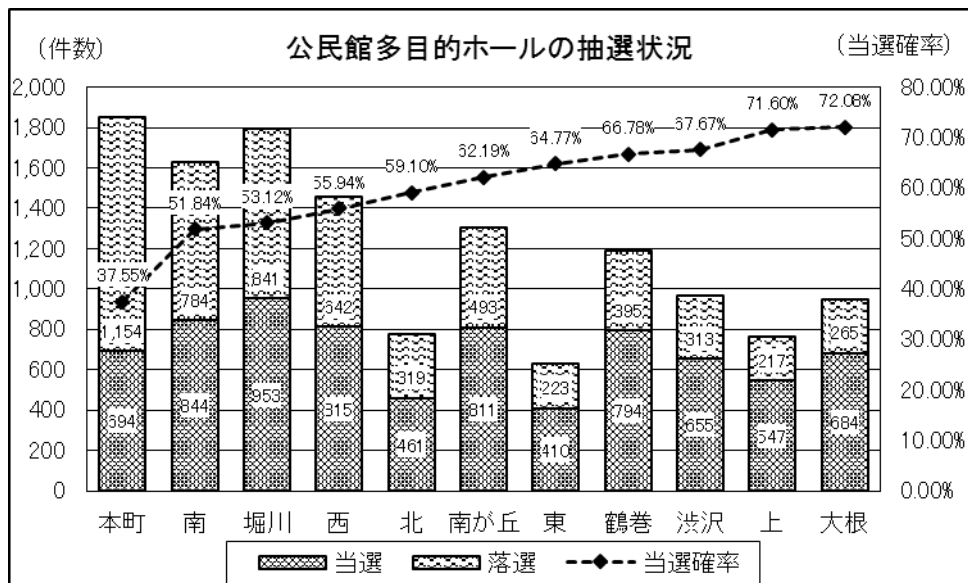


しかし、公民館の中で稼働率が高い多目的ホール（折れ線グラフ）に限ると、全体の平均稼働率が最も高い本町公民館よりも大根公民館と鶴巻公民館が上位に位置しています。また、全体の平均稼働率が最も低い上公民館の多目的ホールは、渋沢公民館よりも高い 34.60%の稼働率となっていることから、平均稼働率以上に需要があることが分かります。

このように、全体だけではなく部屋別の稼働率を把握することで、公民館ごとの利用傾向がつかめる場合もあり、地域のニーズが高い機能に転換することで、稼働率の向上が期待できる可能性があります。

次ページのグラフは、公民館別の多目的ホールの抽選状況です。利用希望が重複した場合に抽選となりますが、多目的ホールの稼働率が本町公民館よりも高い鶴巻公民館の抽選申込件数はおよそ 1,200 件と、最も件数が多い本町公民館の 2/3 程度となっています。このことから、鶴巻公民館の多目的ホールについては、日にちや時間を変えてでも鶴巻公民館を利用

したいと考える落選者が多いと予測できます。



当選確率が 37.55%と最も厳しい本町公民館は、多目的ホールの平均稼働率も 50%超と高く、落選した利用者が空き時間に利用することも難しいため、日にちや時間の変更ではなく、他の公民館や公共施設を利用している可能性があるかもしれません。

また、北公民館は 800 件以下と少ない抽選申込件数に対して、当選確率が 60%を下回っています。平均稼働率も 43.49%と決して高くはないため、抽選対象となる時間帯以外は比較的利用しやすい状況とと思われますが、逆に言えば、利用希望団体が使いたい時間が集中しているとも考えられ、多目的ホールの分割利用や、他の部屋の機能転換で利用促進が図れる可能性があるかもしれません。

公民館は、音楽室の有無や集会室の数に違いがあるほか、地域によって利用の状況や稼働率が異なるため、館別に稼働率等を見ていくこととします。

ア 渋沢公民館

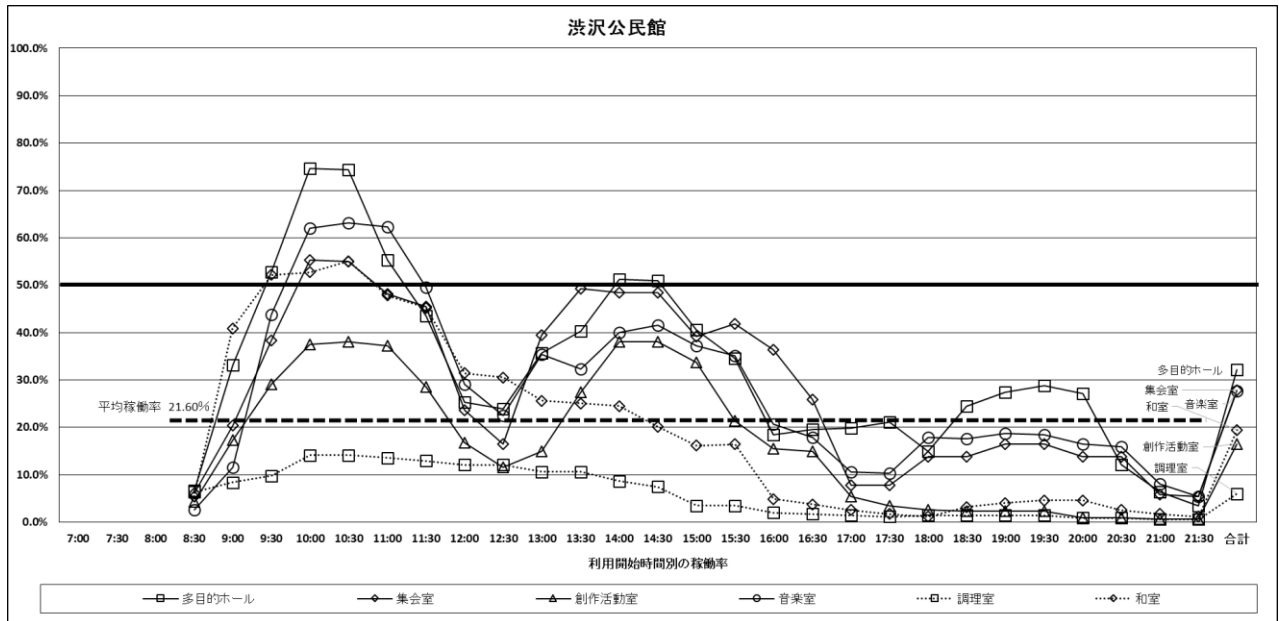
多目的ホール、集会室、和室、調理室、創作活動室、音楽室のほか、図書室と児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 21.60%と低く、最も稼働率が高い多目的ホールでも 32.11%となっています。多目的ホールの稼働率が低い分、個人利用の人数が多めとなっているほか、古い公民館にはない音楽室の利用件数が多目的ホールの次に多くなっています。調理室は著しく稼働率が低く、平均で 6.03%となっています。

渋沢小学校及びしづさわこども園に隣接し、駅からは少し距離があり

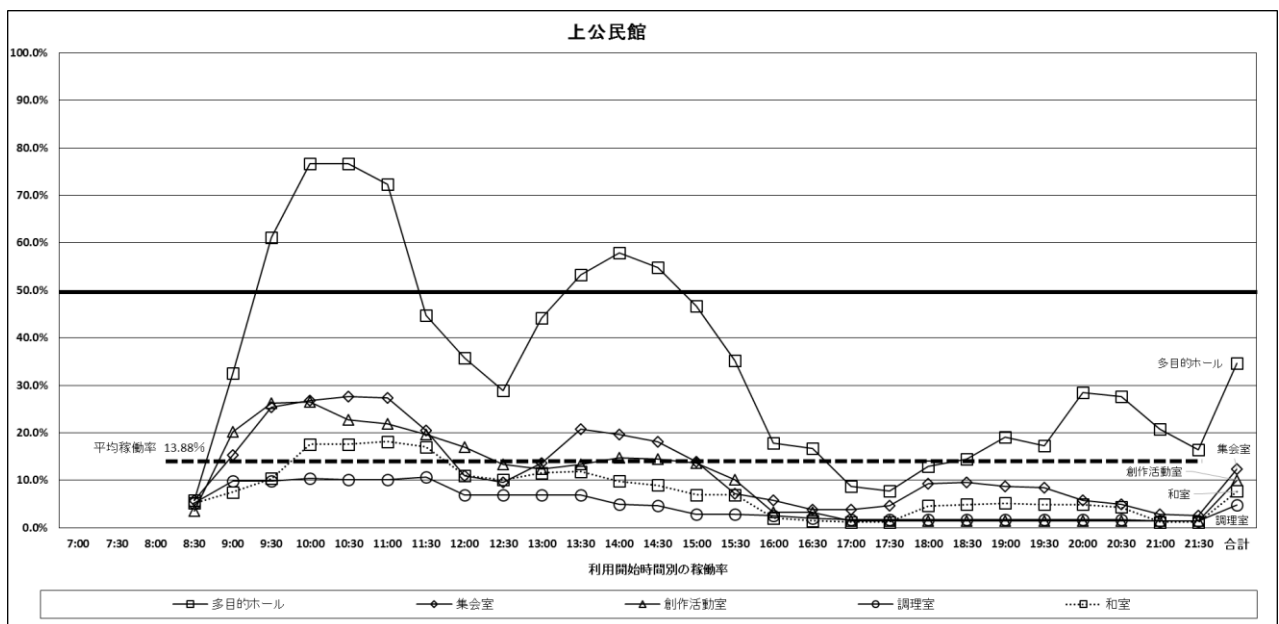
ますが、駐車可能台数は比較的多く、アクセス面では問題がないと思われます。近隣の同種施設として、西及び堀川公民館と曲松児童センターがあり、利用が分散していることが、稼働率が低い要因のひとつと考えられます。

午前中の稼働率は高めですが、午後及び夜の稼働率が低いため、「定期的企業使用」の導入によって稼働率が向上する可能性があると考えられます。



イ 上公民館

多目的ホール、集会室、和室、調理室、創作活動室のほか、図書室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。



平均稼働率は公民館 11 館の中で最も低い 13.88%ですが、多目的ホ

ールは 34.60%となっています。目安となる稼働率 50%を超えるのは午前及び午後の多目的ホールのみで、夕方以降の時間帯では、創作活動室、調理室、和室の稼働率が著しく下がります。

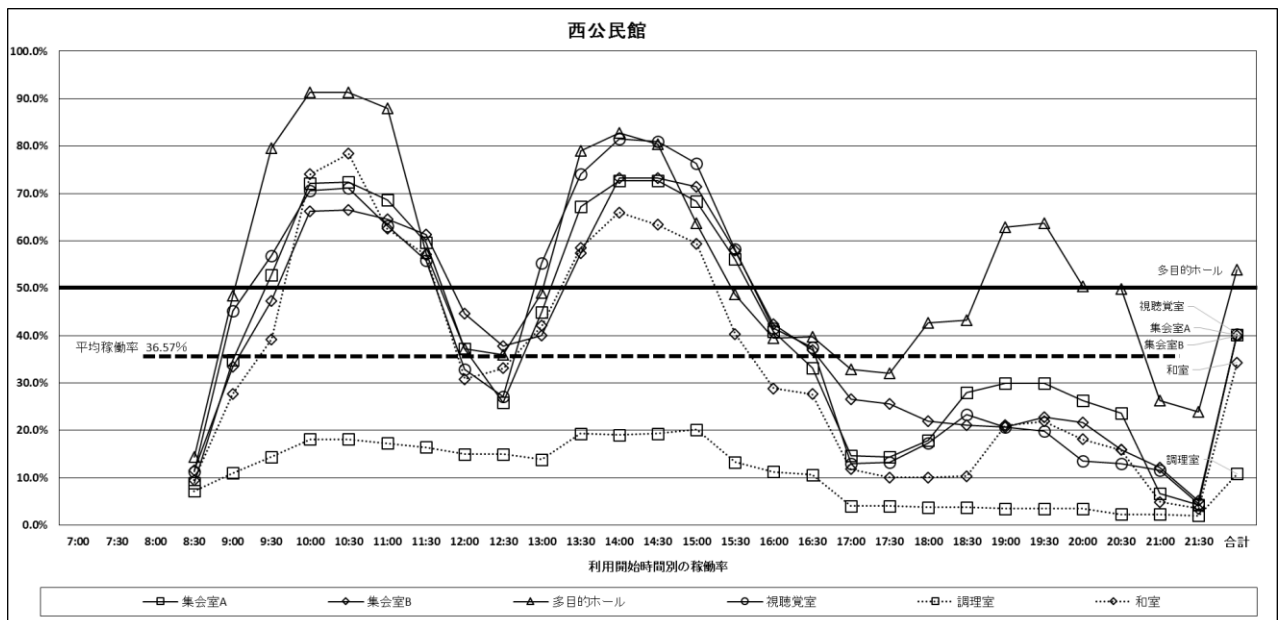
地域的に利用者が限られてしまうことは仕方ないかもしれませんが、一定の需要がある多目的ホール以外の部屋については、近隣の児童館機能の移転なども含めて、活用方法を検討する必要があります。

ウ 西公民館

多目的ホール、集会室（2室）、視聴覚室、和室、調理室のほか、図書室を備えています。渋沢駅連絡所に近いため、連絡所機能はありません。

老朽化しているため、隣接している西中学校の体育館及び武道場と複合化した施設として工事中であり、完成後には多目的ホール及び集会室 4 室のほか、図書室を備えた施設となる予定です。

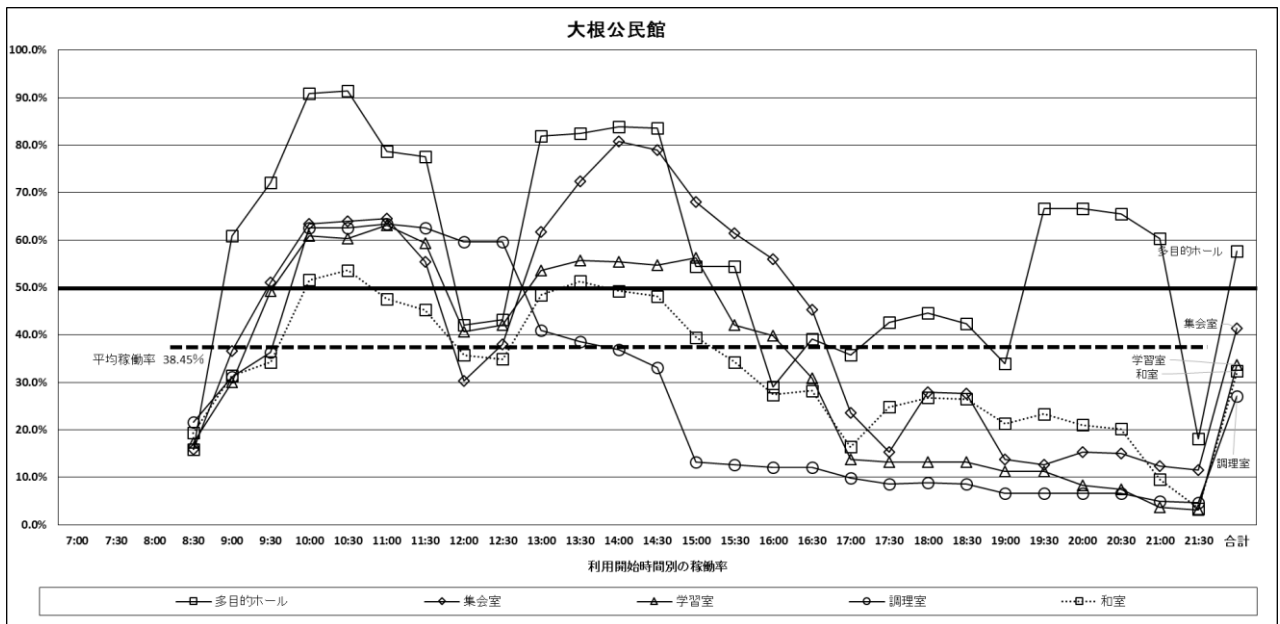
現在の平均稼働率は 36.57%と公民館の中では高く、中でも多目的ホールは 50%を超えています。しかし、調理室は平均 10%程度と最も低い稼働率となっています。調理室の稼働率の低さは全公民館共通の課題であり、新しい西公民館は専用の調理室を設けず、可動式の調理台を導入する予定で、イベント時などには西中学校の家庭科室を利用することとしています。新西公民館の利用状況や稼働率は今後の複合化等の参考となる可能性があります。



エ 大根公民館

多目的ホール、集会室、和室、調理室、学習室のほか、図書室及び児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 38.45%と公民館の中では高く、多目的ホールは最も高い 57.69%となっています。



部屋別では、他の公民館と同じく調理室の稼働率が低い傾向がありますが、和室及び調理室を利用して老人いこいの家機能を実施しているため、15時までの稼働率は非常に高くなっています。

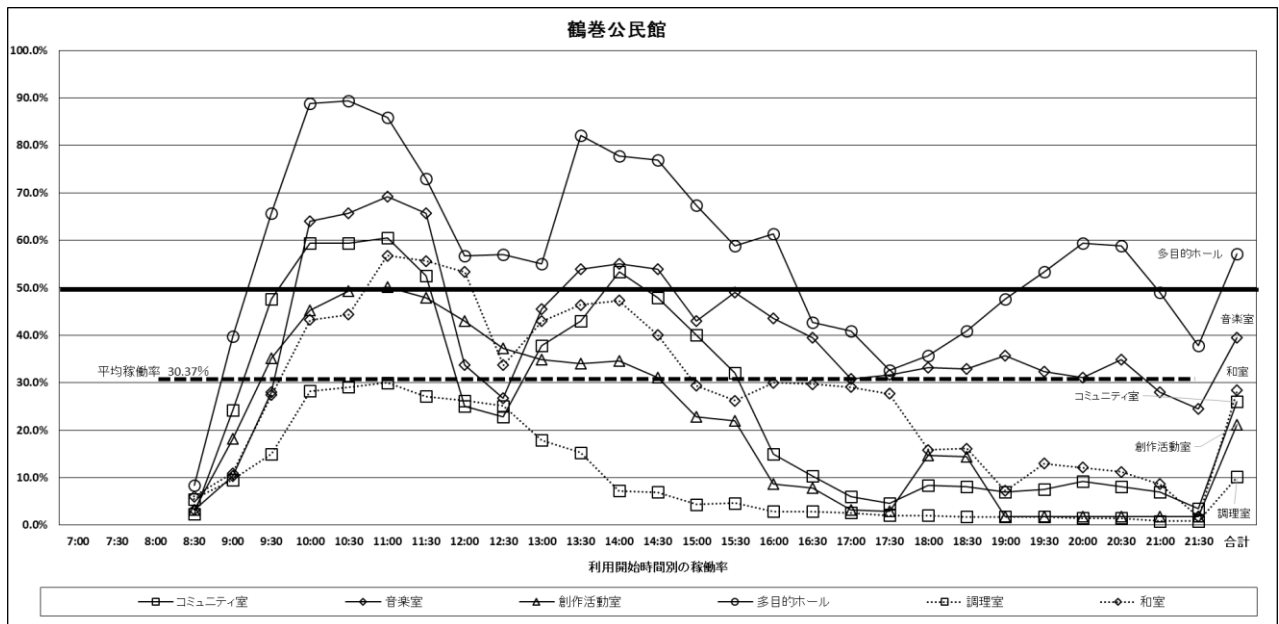
築40年が経過し老朽化しているほか、エレベーターの設置が難しくバリアフリーでないこと、駐車場が狭いことなど課題が多い館ですが、これらの課題が稼働率に影響を及ぼすことなく、効果的に利用されているといえます。

調理室の稼働率からは、老人いこいの家機能を合わせ持つことで効果的な利用に結びつく可能性が示唆され、今後の公民館機能の参考になると考えられます。

才 鶴巻公民館

多目的ホール、和室、調理室、創作活動室、音楽室、コミュニティ室のほか、図書室、児童室を備えています。児童室については、他の公民館がフリースペースとしているのに対して、児童館に準じる形で児童厚生員を配置していることが特徴です。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 30.37%で全公民館の平均値よりも少し低くなっていますが、多目的ホールは 57.14%と大根公民館に次ぐ高い稼働率となっているほか、音楽室も 39.44%と高めの稼働率となっています。

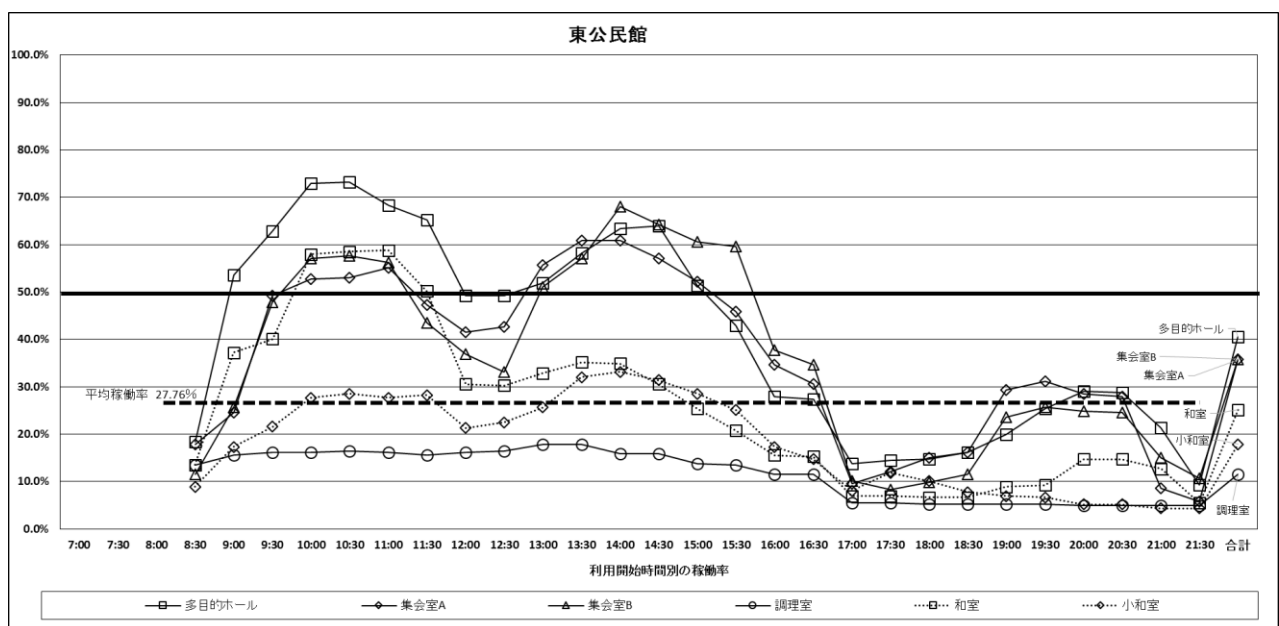


多目的ホール及び音楽室の稼働率が高くなっているのに対して、その他の部屋の稼働率が低くなっているのは、調理室を除いて近隣のサンライフ鶴巻と機能が重複し、利用が分散していることが一因と考えられます。地域にとって必要な機能と量を検討したうえで、両施設で効果的な利用を図る必要があります。

カ 東公民館

多目的ホール、集会室（2室）、和室、小和室、調理室のほか、図書室、児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 27.76%と低めで、最も高い多目的室でも 40.47%となっています。



午前及び午後は多目的室、集会室、和室の稼働率が高い傾向にあり、

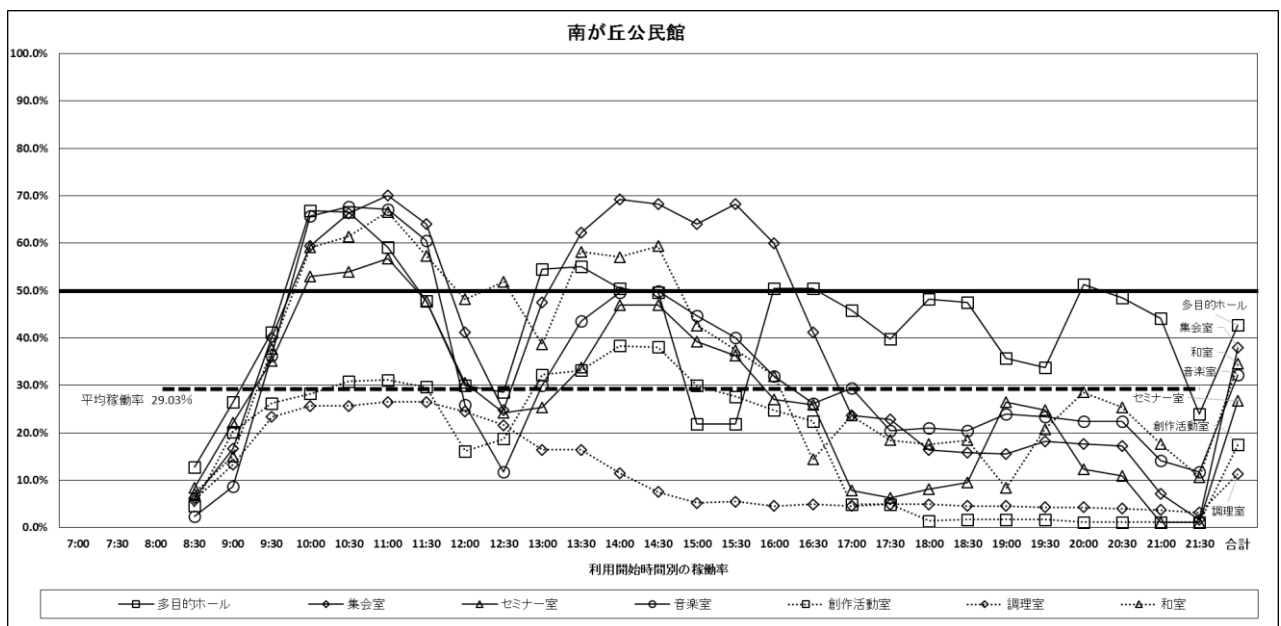
夜間も多目的ホール、集会室の稼働率が上昇しますが、決して高くはありません。

東地区には不特定多数の市民が利用する施設は東公民館のほかにはなく、小中学校を別にすれば、公民館が地域コミュニティの中心となります。施設を活性化することで有効活用が図れる側面もあると思いますので、稼働率の低い部屋を老人いこいの家機能や児童館機能へ転換し、地域における拠点としての存在感をアピールする必要があるかもしれません。

キ 南が丘公民館

多目的ホール、集会室、和室、調理室、創作活動室、音楽室、セミナー室のほか、図書室と児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 29.03%と低めですが、多目的ホールは 42.66%と高めになっているほか、集会室、和室及び音楽室の稼働率も 30%以上と比較的高めです。これに比べて、集会室と機能が重複するセミナー室の稼働率が 26.75%と低くなっています。



時間帯別に見ると、午前中の稼働率が高い部屋が多く、また、集会室は午後にも大きなピークがあります。夜間については、多目的ホールが比較的高めで、20 時からの時間帯が最も高くなっていることから、夜間の時間帯の前半と後半で利用者が入れ替わっているのかもしれません。

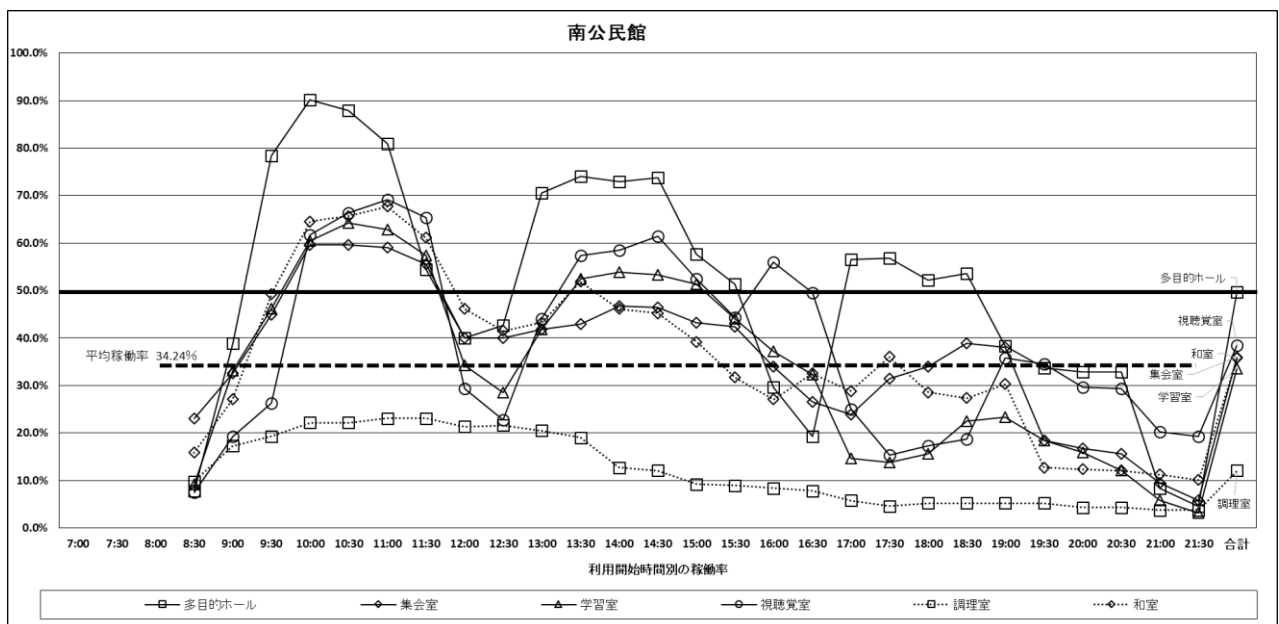
近隣に貸し館機能を有する施設がないことから、昼間には一定の需要がありますが、夜間は創作活動室や調理室のようにほとんど利用されて

いない部屋があるため、「定期的企業使用」の導入などにより、有効活用を図る必要があります。

ク 南公民館

多目的ホール、集会室、視聴覚室、和室、調理室、学習室のほか、図書室を備えています。市役所本庁舎及び秦野駅連絡所に近いため、連絡所機能はありません。

平均稼働率は 34.24% で、公民館の中では中間に位置しています。多目的ホールは目安となる 50% にわずかに届かない 49.64% と高くなっているほか、調理室を除いた全ての部屋において午前及び午後の稼働率が高めです。



比較的機能が似通った集会室、視聴覚室、学習室の平均稼働率が同程度であり、午前と午後は比較的高めとなるため、1室を他の機能に転用することは難しい半面、夜間の集会室及び学習室の稼働率が低いため、「定期的企業使用」を導入する余地はあるかもしれません。

築 50 年と古く、駐車場も限られているほか、構造的にエレベーターの設置が難しいという問題がある中、2階に位置している多目的ホールの稼働率が高い理由は、比較的新しい公民館の多目的ホールより安い使用料となっていることが大きいと考えられます。

近隣には児童館が 2 館ありますが、他に貸館機能を有する施設がないため、地域における中心的な施設であるといえます。建替えの希望も多くなっていますが、建替え後に使用料が上がることで、稼働率を維持できるのかどうか不透明な面があるため、新西公民館の稼働状況等を参考

にしながら、備える機能や施設の広さを検討していく必要があります。

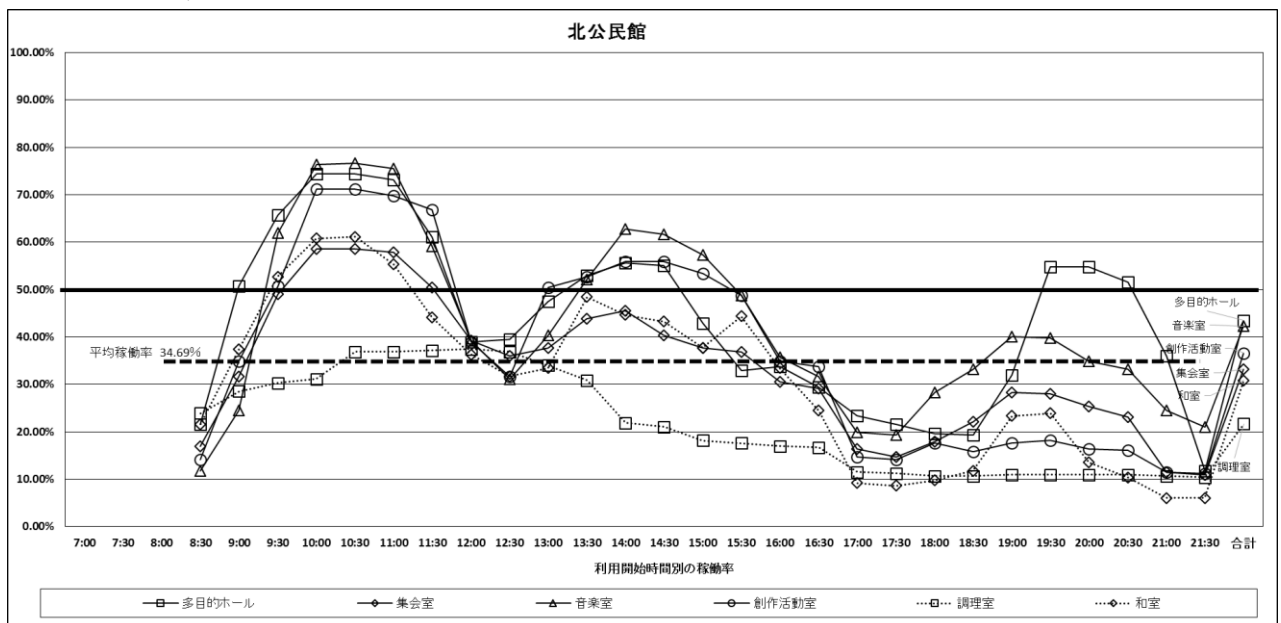
ケ 北公民館

多目的ホール、集会室、和室、調理室、創作活動室、音楽室のほか、図書室及び児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

平均稼働率は 34.69%と公民館の中では中間に位置しています。

多目的ホールの稼働率は 43.49%で、午前及び午後の早い時間帯では高めとなっていますが、15時から19時まで低くなり、その後50%以上まで上昇します。社会人で構成される団体の活動が活発な可能性があること、また、夕方の時間帯は空いている日が多いことから、児童館機能などを移転した場合でも、児童の遊び場として活用できる可能性があります。

音楽室の稼働率は、近隣に音楽室機能を持つ公共施設がないため42.25%と高く、一定の需要があることが分かります。また、調理室の稼働率が21.68%と公民館の中では高めとなっています。



コ 本町公民館

多目的ホール、集会室（2室）、和室、調理室、創作活動室、音楽室のほか、図書室及び幼児コーナーを備えています。秦野駅連絡所及び市役所本庁舎に近いため、連絡所機能はありません。

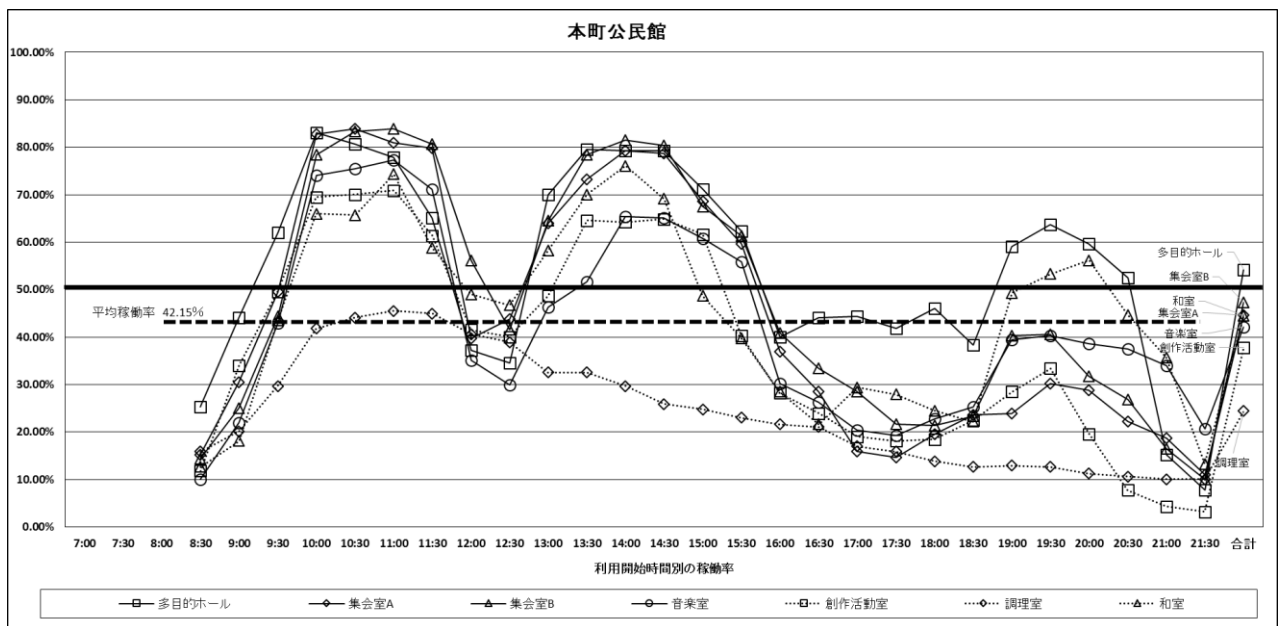
施設が比較的新しく、また、秦野駅から徒歩圏内にあり、隣接している大型ショッピングセンターの駐車場を利用できるなど、アクセス面が充実しているため、平均稼働率は公民館の中で最も高い42.15%となっています。

多目的ホールの稼働率は 54.22%と高く、次いで 47.28%の集会室 B となっています。

調理室以外の部屋は午前、午後の時間帯で目安となる 50%の稼働率を上回っていますが、夜間の稼働率は多目的ホール及び集会室 B を除いて低くなっています。

平成 26 年度末に曾屋ふれあい会館が廃止されたため、本町公民館がその機能を引き継いでいる面があり、他の公民館に比べて和室及び調理室の稼働率が高めになっていると考えられます。

現在の稼働率を見ると、近隣他施設（末広ふれあいセンター、こども館）の機能を受け入れる余裕はないと考えられますが、利用が少なくなる夜間の稼働率を上げることが平均稼働率の向上につながるため、アクセスの良さを生かした社会人対象の講座の開催など、自主事業の開催を夜間に増やすことも効果的かもしれません。



サ 堀川公民館

多目的ホール、集会室、和室、調理室、創作活動室、音楽室のほか、図書室及び児童室を備えています。また、連絡所業務も実施しています。

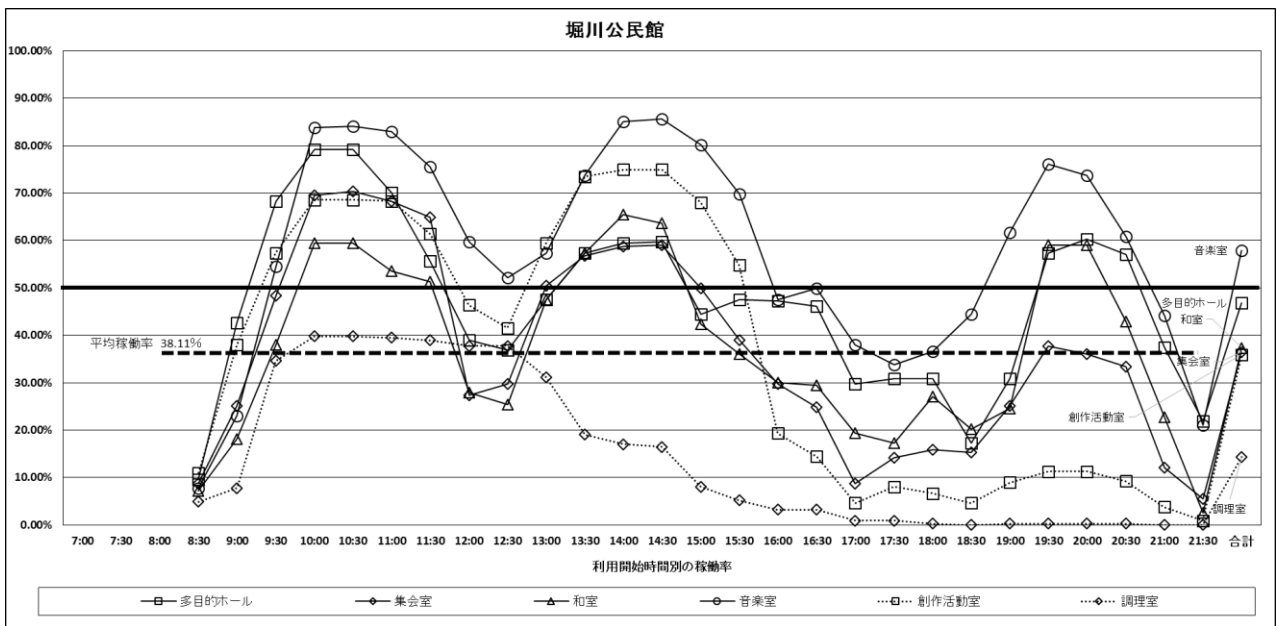
市内の公民館では最も新しいため、平均稼働率は 38.11%と公民館の中で 3 番目となっています。

多目的ホールの稼働率は 46.78%と高めですが、施設の中で最も稼働率が高いのは 57.88%の音楽室です。他の公民館の音楽室は段差がついた教室形式となっているのに対して、堀川公民館は床が平坦であり使い勝手がよいこと、音楽関係以外の利用も可能であることがその要因と考

えられます。

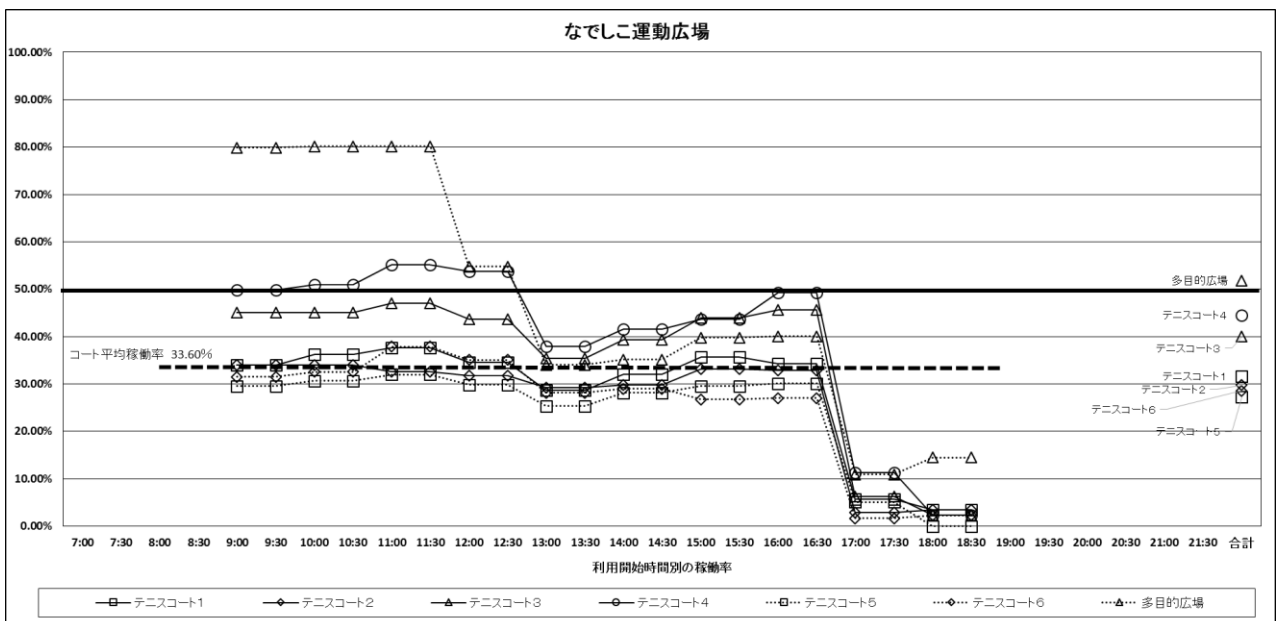
音楽室の稼働率の高さに比べて、調理室は 14.33%と低く、特に 17 時移行は 1%未満という極めて低い稼働率となっています。しかし、午前には 40%近くとなるため、一定の需要はあると考えられます。

近隣には老人いきいの家ほりかわ荘と堀川児童館があります。新西公民館が採用する可動式の調理台を導入することで、午前は調理室機能を使用したいいきいの家機能を、午後は調理台を片付けて児童館機能を、といった効率的な利用が可能となる可能性があります。



(12) なでしこ運動広場

下水道事業用地を暫定利用している広場で、テニスコート6面(クレー)とサッカー、ソフトボール、少年野球が可能な多目的広場があります。



テニスコートの平均稼働率は 33.60%となっています。73.18%のカルチャーパークや 64.34%のおおね公園、66.83%の立野緑地庭球場より低くなっているのは、なでしこ運動広場テニスコートだけがクレーコートであり、また、市民の利用に限られているためと考えられます。

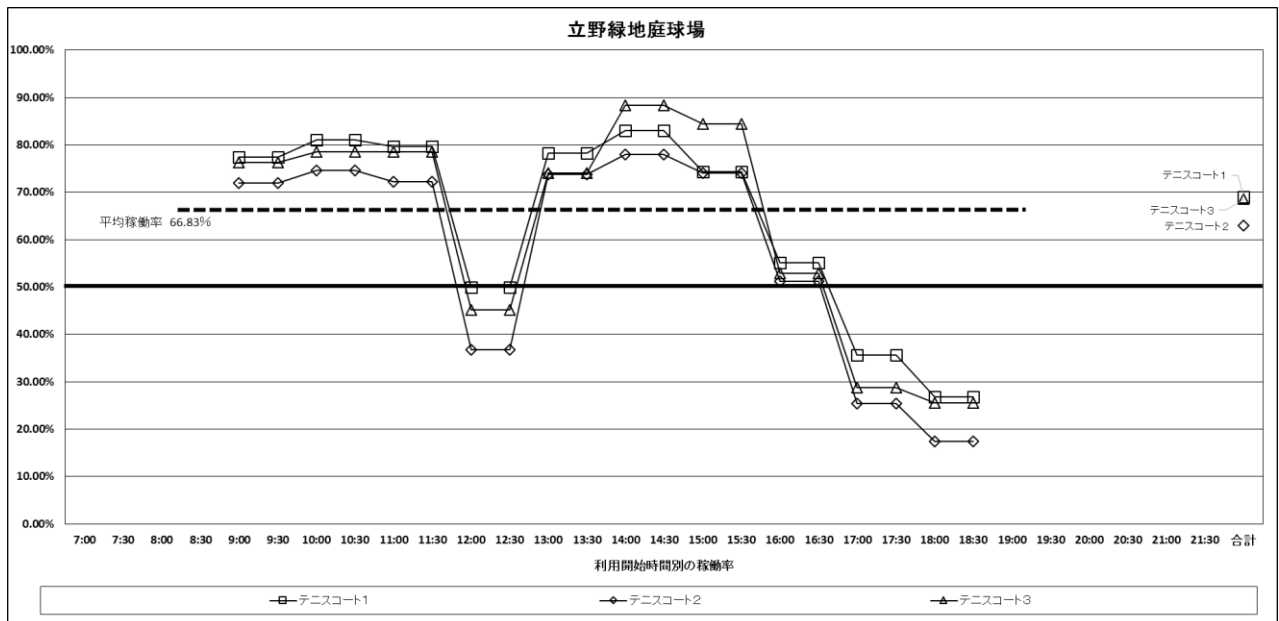
暫定利用のため利用料は無料であり、将来的には本来目的に活用される見込みです。テニスコートは需要が多く、また、多目的広場も午前中は 80%と高い稼働率になっているため、廃止された場合の影響が大きいことが長期的な課題といえます。

(13) 立野緑地庭球場

砂入り人工芝のコート 3 面を備えたテニス専用の施設です。

平均稼働率は 66.83%と高く、午前及び午後は 70%を超え 90%近くまで上がりますが、17 時以降は急激に下がっています。

目安となる稼働率 50%を超えているので、特に問題はありますが、17 時以降の利用について、費用対効果が低ければ利用時間を短縮することでランニングコストを削減することが可能かもしれません。



(14) スポーツ広場

立野緑地スポーツ広場、寺山スポーツ広場、末広自由広場、栃窪スポーツ広場、テクノスポーツ広場の 5 か所をまとめて掲載します。

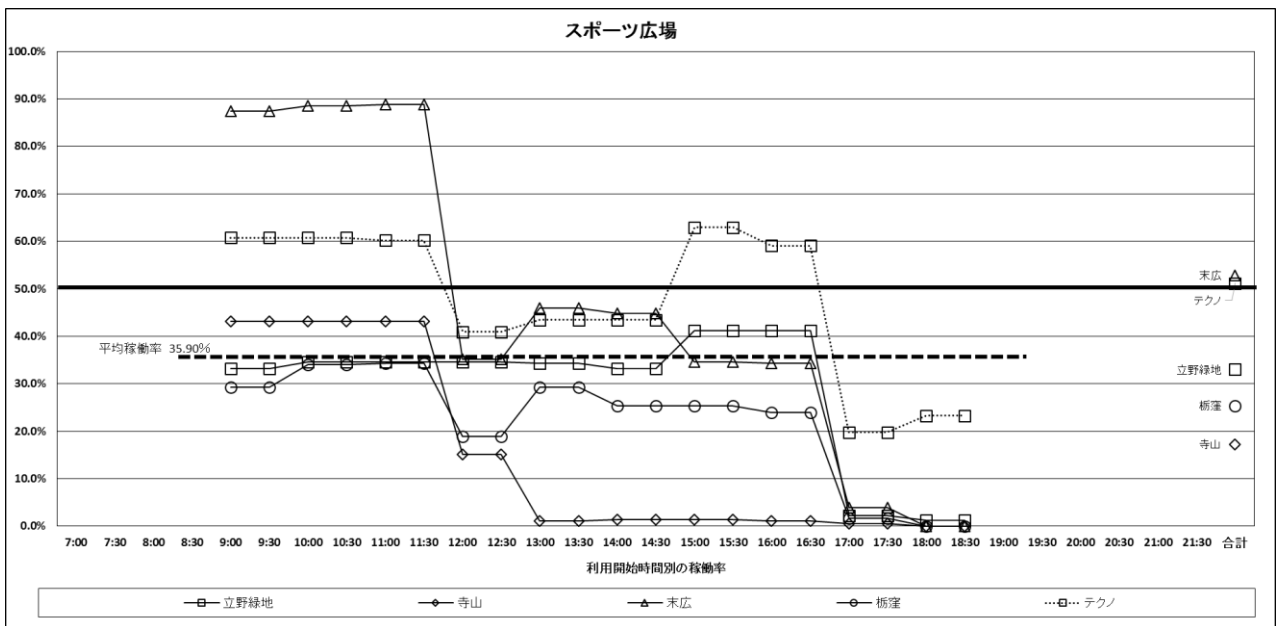
寺山スポーツ広場及び末広自由広場以外の 3 つの広場は暫定利用となっています。

稼働率は順に、52.85%の末広、51.16%のテクノ、32.98%の立野緑地、25.33%の栃窪、17.16%の寺山となります。

末広は午前の稼働率が 90%近くと非常に高くなっていますが、午後には 50%以下に低下しています。

テクノは 15 時から 17 時までの稼働率が最も高く、17 時以降に低下しています。

その他の広場について、立野緑地は 17 時までの時間帯で平均的に 35%程度、栃窪は立野と同じような傾向ですが 10%ほど低く、寺山は午前のみ 40%台ですが 13 時以降はほとんど利用がない、という状況となっています。



全体的に午前の稼働率が高めとなっているのは、高齢者の利用によるものと推測されます。テクノを除くと午後以降の稼働率が低くなるため、この時間帯の稼働率をどのように上げていくのかが課題です。

(15) 広畑ふれあいプラザ

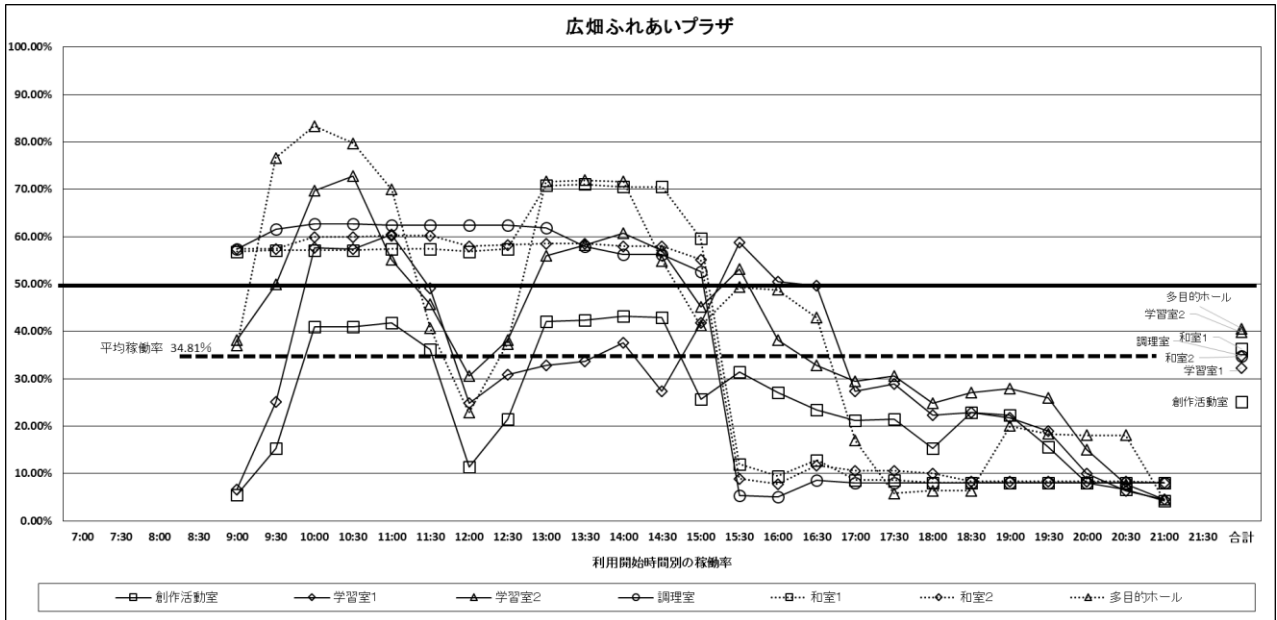
広畑小学校の空き教室を転用して高齢者向けに設置された施設で、平成 29 年 10 月の使用料見直しに合わせて有料の開放施設となりました。開放施設の学習室（2 室）、創作活動室、和室（2 室）、調理室、多目的ホール、個人が自由に利用できる談話室、健康増進室、のほか、現在は未使用となっている浴室を備えています。

開放施設の平均稼働率は 34.81%で、多目的ホールの 40.57%が最も高くなっているほか、創作活動室以外の部屋は 30%から 40%の稼働率となっています。公民館では稼働率が低い調理室は、デイサービスの実施などにより 34.82%と高い稼働率となっています。

近隣には広畑児童館のほか、貸館機能を有する大根公民館がありますが、

平均稼働率が 38.45%と高めで比較的混んでいることから、広畑ふれあいプラザの利用には一定の需要があると考えられます。

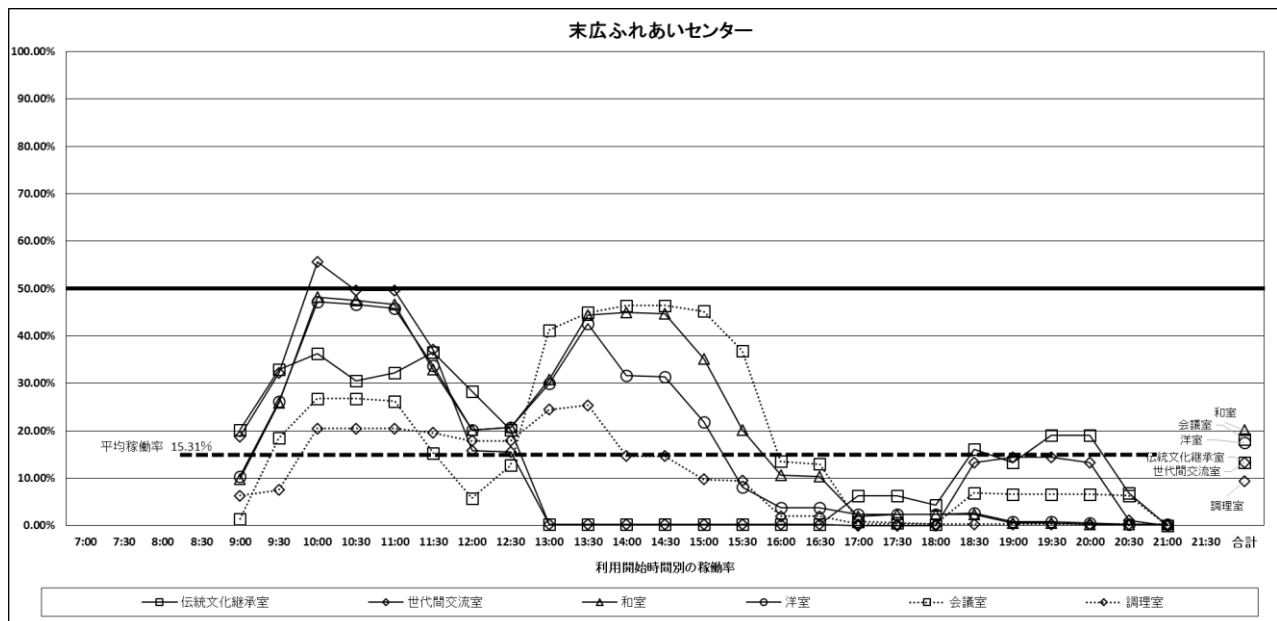
しかし、学習室と和室がそれぞれ 2 室あるため、フリースペースのあり方も含めて、広畑児童館機能の移転などによる効率的な活用を検討する必要があります。



(16) 末広ふれあいセンター

高齢者向け施設として設置されていますが、介護予防のために高齢者と児童との世代間交流を取り入れていることが大きな特徴です。

平成 29 年 10 月の使用料見直しに合わせて、有料の開放施設となりました。開放施設の伝統文化継承室、和室、洋室、会議室、浴室、児童館機能としての世代間交流室及び伝統文化資料室（図書室）のほか、個人が自



由に利用できるリフレッシュコーナーを備えています。

開放施設は40歳以上であれば利用可能ですが、平均稼働率は15.31%と低く、最も高い部屋でも和室の20.16%と低いほか、他の部屋は10%台、調理室は9.43%と10%を下回っています。

近隣には、重複する機能を有する本町公民館、こども館があるため、各施設が有する機能を整理して効果的に活用する必要があります。

また、夜間の「定期的企業使用」を導入するなど、稼働率が特に低い時間帯の有効活用を図る必要があります。